

五感をひらく森計画

岡本 晏実



愛知県蒲郡市を訪れる観光客は2018年頃までは年間600万人前後で推移していたが、2020年COVID-19による影響で、利用客は300万人台まで急減した。現在は400～450万人と回復傾向であるが、以前の水準には戻っていない。(表1) 蒲郡市の南端にある西浦園地は、温泉街としての西浦温泉や海水浴・散策が楽しめる西浦パームビーチといった観光資源に囲まれながらも、園地自体の滞在価値や目的地としての魅力が十分に形成されていない。山と海が隣接した自然豊かなエリアに位置し、海面から展望台までの高低差は69mで急傾斜を登る山道がある。

写真1: 西浦観光協会HPより



頂上の展望台までの傾斜はきついが、頂上まで歩いて15分程度の距離であり、子供でも問題なく登ることができる。展望台は、三河湾と佐久島などの島が一望できる景観で、園地と海をつなぐ山道は、春には桜の花見スポットとしてイベントが行われるが、それ以外にここを訪れる観光客は少ない。展望台までの単なる山道ではなく、山道を歩くこと自体に意味や楽しさを感じられる「体験型空間」を設計した。五感を刺激する自然要素を活かした仕掛けを点在させ、利用者が能動的に自然と関わり、楽しめる装置を配置した。本計画により、山道を魅力的な「行ってみたい」場へと変化させることで、西浦地区全体の活気向上が期待できる。

表1: 蒲郡市観光地利用客の推移



図1: 三河湾と園地までの高低差

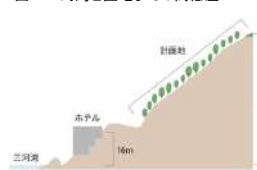


図2: 西浦地区観光地図: 西浦観光協会HPより



写真2: 西浦園地の現地 筆者撮影



五感で感じる、人と環境とのかかわり

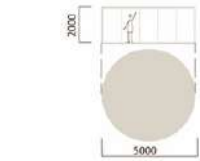
本計画は、木々や潮の香り、木漏れ日の光、風や波の音、足元の草や土の素材感といった自然要素を活かし、都市部では得られない「五感で感じる人と環境とのかかわりを持つ空間」の提案を行うことで、新たな観光価値が生み出されたと考えた。

利用者が「登る」「触る」「休む」「進む」など、能動的に自然と関わり、子どもから大人まで多様な世代が楽しむことができ、ゆったりと自然に身をゆだねることのできる装置10種類を計画した。

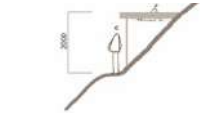


それぞれの装置は光や風、木々の形状や香りなどを手がかりに、五感を通して自然を味わう体験型空間として計画する。単なる景観の変化だけでなく、身体感覚を伴う自然体験を促す。山道への入口には、そこから始まる結界を感じさせる「自然の結び目」を設置し、「風影の巣」や「葉隠れの羽衣」「ささやきの花」など季節に関係なく歩く楽しみをつくる。「木陰の私室」「風のゆりかご」「まどろみの径」を山道に点在させることで、通過するだけであった山道は、立ち止まり、自然を味わう場へと変化する。歩く過程そのものが連続した体験となり、来訪者の興味を高める配置とする。

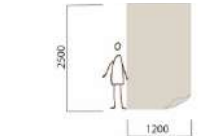
空と地の交点
空中に腕を伸ばした展望台からは、視界が大きく開き、海からの風を受け、視覚のみならず、嗅覚、聴覚、触覚を刺激する。



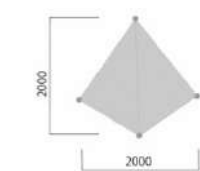
まどろみの径(みち)
山道の高低差を活かし、地面より高い位置にテラスを設置する。座面はロープとし、森の木々の中に溶け込むような視点から、ゆったりと山道と周囲の自然を感じさせる装置である。



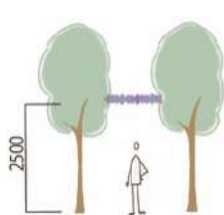
葉隠れの羽衣
半透明の布をレイアのように重ね、自ら布に触れ、かき分けながら進む仕掛けである。布の質感やそこに映る木漏れ日など、視覚意外に触覚を刺激する。



風のゆりかご
山道と山道をつなぐ位置に広めのハンモックを設置し、自然の中でゆったりと寝転び、五感と向き合う時間を生み出す仕掛けである。



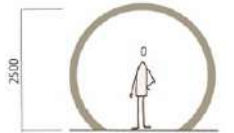
ささやきの花
光を透かす造花越しに差し込む色の光が地面に映り込み、山道の中で、不思議な風景をつくりだす。



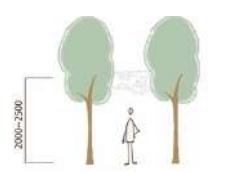
参考資料
統計情報：愛知県蒲郡市HP
<https://www.city.gamagori.lg.jp/life/3/65/>
観光レクリエーション利用者系統：愛知県
<https://www.pre.aichi.jp/soshiki/kanko/recreation.html>
愛知県蒲郡市の温泉観光地：西浦観光協会
<https://nisiuraonsen.com>
西浦園地：愛知県【JAPAN 47 GO】
<https://www.japan47go.travel/ja/detail/>
野村 祐司：ロープが広がる建築空間の可能性
<https://medium.com/kenchikutouron>



自然の結び目
社にある鳥居のように、一歩くぐることで別の世界への入口のような感覚を与え、日常空間から自然体験の森へ、意識を変える役割を持たせる装置である。



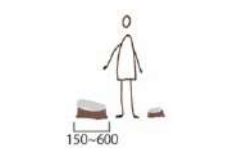
風の奏
森の中を吹き抜ける僅かな風によって揺れ、1枚1枚が触れ合い、かすかな音を生み出し、風の音を感じることのできる装置である。



風影の巣
風を受けることで小さな音が出る装置である。音を感じることで、歩く速度が自然と緩まり、立ち止まるきっかけを与えることができる。



星の道標
木漏れ日の光を反射し、キラキラと楽しく揺れる明るい光が視覚を刺激し、雨の日には装置に当たる雨粒がはねる音を生む仕組みとする。



木陰の私室
鳥の巣のような、隠れ家のようにワクワクする装置である。自然素材を素材に感じ、視覚的な印象に加えて触覚が刺激される。

